

2020 年度 小委員会活動成果報告

(2021 年 2 月 1 日作成)

小委員会名	拡張排水システム小委員会		主 査 名：坂上 恭助 就任年月：2019 年 4 月
所属本委員会 (所属運営委員会)	環境工学委員会 (建築設備運営委員会)		委員長名： 持田 灯 主 査 名： 長井 達夫
設 置 期 間	2019 年 4 月 ～ 2023 年 3 月		
設 置 目 的 各年度活動計画 (箇条書き)	<p>(設置目的)「拡張排水システム」は、従来型の排水システムの体系から逸脱するため、認知と普及に課題がある。そこで、学会として技術的な体系や基準を示すことによって、その普及拡大を支援していくこと。</p> <p>初年度：出版原稿執筆・適用事例収集 2 年度：出版作業支援・適用事例整理 3 年度：AIJES 改訂作業 4 年度：適用事例のまとめ</p>		
委員構成 (委員名 (所属))	委員公募の有無： な し		
	主査：坂上恭助 幹事：古賀誉章、佐々木敏 委員：飯塚 宏、臼井政夫、加藤健一郎、久保勝之、小寺定典、榎木 剛、高津靖夫、谷 信幸、前川一郎、真山淳哉、山本慈朗		
設置 WG (WG 名：目的)			
2020 年度予算	120000円	ホームページ公開の有無： な し 委員会 HP アドレス：	

項 目	自己評価
委員会開催数	7 回 (年度内計画を含む)
刊行物 (シンポジウム資料等は除く)	
講習会	
催し物 (シンポジウム・セミナー等) *能力開発支援事業委員会 承認企画	
大会研究集会	1. (名称) 参加者数 名 (資料名)
対外的意見表明・パブリックコメント等	
目標の達成度 (当初の活動計画と得られた成果との関係)	1. 刊行支援作業は遅れたものの、査読までは終了できた (90%) 2. 適用事例収集・整理は、順調に進み、情報共有ができた (100%)
委員会活動の問題点・課題	1. コロナ禍で活動を一時休止せざるをえなかった 2. 遠隔会議に対応できない委員は、参加ができない場合があった

2020 年度 小委員会活動 自己評価
(中間年度評価)

総合評価 (4 段階評価)	A
総合評価に関する 自由記述欄 (理由、特記事項等)	<p>刊行小委員会における刊行準備作業の遅れに加え、コロナ禍による活動の休止があったために、進捗は目標から遅れている。しかし活動再開後は、遠隔参加も含めて、年度当初計画の 6 回を超えて精力的に活動した。年度内の出版は達成できなかったものの、査読まで終了する見通しである。また、適用事例収集・整理については、新しい事例について情報共有できた。したがって、達成度 95% (A) と評価した。</p>

- 総合評価は 4 段階(A>B>C>D)にて、自己評価すること。
- 中間年度における自己評価は、単年度の活動計画・目標に対する達成度にて、最終年度における自己評価は、小委員会の設置目標に対する達成度にて評価する。自己評価の目安は以下の達成度レベルを参照のこと。
 - A 評価：小委員会設置目標に対し、80%以上の達成度
 - B 評価：小委員会設置目標に対し、70%から 80%の達成度
 - C 評価：小委員会設置目標に対し、60%から 70%の達成度
 - D 評価：小委員会設置目標に対し、60%以下の達成度
- 小委員会の活動に対し、第三者的評価・外部評価 (シンポジウム、セミナー等の催し物を開催した場合に収集した参加者の評価など) に相当する情報がある場合には、その内容も記述すること。